

# 「清潔」

清潔は、自分の身の回りをきれいにすることから始まり、良い環境を保ち、その良さを誇れるようになることを目指します。そのための「自ら環境を整える」「相互に環境を保つ」「環境の良さを誇る」の、三つのステップを紹介します。

	<b>H o p</b> 【自ら環境を整える】	<b>S t e p</b> 【相互に環境を保つ】	<b>J u m p</b> 【環境の良さを誇る】
	<p>まずは子ども一人一人が身なりを整え、自分の身の回り（机、ロッカー等）をきれいに使うことができるようにするところから始めます。身の回りを清潔にし、環境を整えることは、単に場をきれいにするとどまらず、そこで学校生活を共にする仲間を思いやることでもあり、気持ちの良い人間関係を築く基盤になります。</p>	<p>子ども一人一人が環境を整えることができるようになったら、今度は学校全体としてその状態を維持できるようにしていきます。学校を清潔に保つためには、一人一人が良い状態を維持しようと意識して学校施設を使うことに加え、清掃にも力を入れていきます。</p>	<p>環境を整え清潔な良い状態を保っていることを、自分たちの学校の良さとして誇れるようにしていきます。環境を整えることを通しても相手のことを考えて行動するようになり、良い環境を保っていることを自覚することで自信につながり、安定した人間関係が築かれ、その良さが循環していきます。</p>
<b>教員の働きかけ</b>	<p>①学校は公共の場なので、一人一人が散らかさない、汚さない、片付けるなど、人に迷惑をかけないように、環境を整える意識付けを行う。また、日頃から汚れ・破損箇所等そのままにしておかないようにする。汚れや破損があったときにはすぐ汚れを落とし修理する。</p> <p>②整った身なりや、季節、場に合った服装を例示し、清潔感のある服装をする意識付けをする。</p> <p>③清掃、分別収集などについて予めルールを示し、子どもに確認させておく。</p>	<p>①日ごろ汚れやすい場所は、子どもに注意を促す掲示をする。きれいになっているところや、良い行いをしている子どもの行動を取り上げ、認めていく。</p> <p>②上級生と下級生がペアを組んで清掃する、中学校・高等学校では部活動単位でも清掃を行う等異学年、異集団で相手を意識できるような清掃の工夫をする。</p> <p>③中学校、高等学校では、自分たちで服装、頭髪などに関して学校で必要なマナーを確認し、お互いにチェックをさせる。マナー集会をすることも考えられる。</p>	<p>①校内に自分たちが特にきれいにしておきたい、学校の自慢の場所をつくる。その場所が清潔に保たれている良さを自覚させ、みんなで大切に使用してこうとする意欲を高める。</p> <p>②学級の係や委員会の子どもたちに、季節感あふれる掲示物を工夫して作成、掲示させることで、自分たちが学校環境を整えていることを自覚させ、自分たちの力で環境を良くしていけることに自信を持たせる。</p> <p>③学校に登校するとき、きちんとした服装ができていることを自覚させ、きちんとした服装は誰から見ても信頼のおけるものであることに気付かせる。</p>
<b>指導のポイント</b>	<p>①子どもが“気持ち良い”と感じる状態になるように、環境を整える。意識付けを年度始めに行っておくと更に効果が高まる。例えば、入学式には、在校生（先輩）が丁寧に清掃を行い、新入生を迎えるようにする。良い環境をつくるのは他の誰かがするのではなく、その場にいる自分たちであることに気付かせるようにする。1日の最後には、必ず教室を確認し、子どもが気持ち良く朝を迎えられるようにする。場合によっては担任からのおはようメッセージも効果的である。</p> <p>②身だしなみを整えることは、接する相手にきちんとした態度で向き合うことになるため、同じ空間で生活を共にする相手を大事にすることが、敬う気持ちにつながるということを意識させる。</p> <p>③実際に清掃時のゴミの回収等には子どもにも一緒に作業をさせる。高等学校では生徒会で自分たちのルールを考え、決めるとよい。</p>	<p>①汚れたところをきれいにするのではなく、きれいに使ってその状態を保つことを意識させる。禁止をするよりも、例えば「きれいに使おう、できるよね。」のように子どもを信頼するメッセージを伝え、自尊感情を高める呼びかけをしていく。良い行いをしている子どもの行動を賞揚する場面をつくる。</p> <p>②上級生は下級生と共に行動し、率先して範を示し、下級生は上級生の姿から学ぶことを意識させる。</p> <p>③掲示物などを活用し、自分たちで確認したマナーを周知していく。お互いチェックすることで、共により良い生活をしていこうとする気持ちを高める。 〔清掃用具の充実〕 子どもの身体と清掃場所に合わせて、必要な清掃用具を必要数そろえることも大切なことである。定期的に点検し、不足分はすぐ補充する。清掃用具入れも整理整頓を心掛け清潔に保ち、いつでも必要な清掃ができるよう準備しておく。</p>	<p>①自慢の場所が清潔に保たれている意味や理由を後輩にも伝え、この学校の伝統として引き継いでいくようにさせる。</p> <p>②通学路等、学校の外にも目を向けさせ、学校の中をきれいにしてきたことと同じことが、学校の外、地域でもできることに気づかせる。</p> <p>③当たり前のことができていることを見過ごすのではなく、当たり前のことが当たり前でできることがすばらしいと価値付け、それができるのが「○小生」「○中生」「○高生」であるという自信と誇りをもって生活させる。</p>
<b>期待できる効果 (子どもの変容)</b>	<p>○学校を清潔にすることは、共に生活する仲間を大切にすることであるということを理解し、自分もその学校の大切な一員として、まずは自分の身の周りから環境を整えていこうとする態度が養われていく。また、公共の場をきれいにするためには一人一人がルールを守り意識して行動することが大切であることや、用務員や技能員の気持ちにも気付き、自分たちで環境を整え、人に迷惑を掛けないようにする意識が高まる。</p> <p>○季節、場に合った清潔感のある服装をすることが環境を整える一因となり、落ち着いた生活につながっていく。</p>	<p>○相手から信頼され、認められることにより、自分も学校の一員として役に立っていることが分かり、自信がつき、自尊感情が高まっていく。学校で共に過ごす仲間を思いやり、お互いに学校をきれいに使い、清掃することにより、その清潔な状態を保とうという意識が高まっていく。</p> <p>○お互いを意識して、相手のことをより考えて行動するようになる。同じ空間で学校生活を送る仲間を大切にし、気持ちよく過ごそうとする気持ちが養われる。</p>	<p>○学校の環境を整え、清潔な良い状態を保ってきた自分たちの良さを自覚することで、その良さに誇りをもてるようになる。後輩にも伝えていくことで、その良さが自然に受け継がれていく。</p> <p>○自分自身の良い身なり、清潔さが、相手と共に過ごす空間を大切にすることにつながり、良い循環が生まれていく。</p> <p>○社会に出てからも、自分の置かれた環境を良くしていこうと自主的に行動できるようになる。</p>

